



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

99.1.29 No. 4912

追悼 市東東市さん

一人微動だにせず



一月二一日、三里塚・芝山連合空港反対同盟の市東東市さんが逝去されました。享年八四歳でした。

市東さんは、二期工事用地内一天神峰にあつて、一身で政府・空港公団と対峙し、三里塚闘争が始まって以来三三年間、終始一貫して信念を貫き通した最も尊敬すべき偉大な闘士でした。

とりわけ天神峰は、一九七八年の暫定開港後、二期工事の強行を狙う政府・公団の手によって、最も激しく同盟破壊攻撃が吹き荒れた地区でした。成田特措法によって現地闘争本部は暴力的に封鎖され、莫大な札束による切り崩しが集中し、その結果、市東さんを除く全農家が脱落するという状況が生みだされました。そうしたなかにあつて市東さんはひとり微動だにせず、非妥協の姿勢を貫かれたのです。

市東さんはいつも、集会の参加者に「同志の皆さん」と呼びかけ、「二期工事は絶対にできない、三里塚闘争は必ず勝利します」と揺るぎない確信を込めて訴えました。市東さんにとつて、国家権力との闘いは何か特別のことではなく、まさに生きることと一体化しているようでした。故戸村委員長が言われたように、市東さんは本物の革命家でした。

全国の闘う仲間たちが、市東さんの非妥協・不屈の闘魂にどれだけ励まされたことか。いよいよ二期着工攻撃をめぐる決戦というときに残念でなりません。

しかし、市東さんは葬られても、三里塚とともに闘う全国の労働者・人民の心の中の市東東市は決してたおれません。私たちは、残された者の責務として、あなたの遺志を受け継ぎ、労働連帯の大義を守り、空港廃港の日まで闘いぬく決意です。心から冥福をお祈り致します。

被災地の闘いは終つてない

一月二三日、豊島区立労働青年センターに於いて、「大失業とたたかう労働運動から学ぼう・震災四周年東京集会」が、被災現地の労働者も参加して行なわれた。

東京労組交流センターの米山さんの司会で、集会を始める前に一月一七日で四周年を迎える被災によって亡くなられた方々に対して参加者全員で黙祷を捧げた。

まず被災現地から実際に被災され、「被災地雇用と生活要求者組合」で頑張っている町敬一さんより被災地の現状が報告された。『とにかく仕事がない。求人すらない。組合でピラマキや集会に参加して頑張っている』と悲痛な現実を訴えた。

続いて、「大失業時代の到来と被災地・反失業のたたかい」として関西合同労組・宮武章治書記長より基調講演を受けた。

この基調は、大失業の中に叩き込まれた被災地で、如何に闘うか、そして奪われた団結を取り戻すためにどう闘っていくか、という方針をこれから始まるであろう大失業時代の労働運動のあり方を示す力強いものだった。

ここでカンパアピールがありその後の発言で、ス労自主の中村さんより「一・一七被災四周年闘争に一四名で参加した。被災地はすごい活気だった。この被災地闘争は、これからの労働運動の道標になるだろう」と連帯のアピールを訴えた。

続いて労働千葉の川崎執行委員が発言し、「物販で被災地に伺った時、現場の情報を頂く。闘いがなければ被災地の運動は成り立たない。五・二八判決は国労・労働千葉だけでなく、被災地の労働委員会闘争にも反映している。こういう時代だからこそ共に闘う組合を結集し、労働運動の全国ネットワークを創りだそう」と、共に闘う決意を訴えた。そして街頭でのカンパ活動を闘った東京東部交流

センターから「四日間のカンパ要請で三〇万集まった。まだ被災地は忘れられていない」と、訴えた。集会の最後に、交流センター運営委員の庄山さんより、まとめとして「大失業と闘うことがあまりリアリティが広がっていない。これに風穴を開けたい。如何に闘っていくか、敵の狙いはリストラ、賃下げをやるんだということです。被災地の闘いに学んでいかなければならない」と大失業時代をどう闘っていくかを訴え、集会は終了した。

新春お年玉クイズ当選者

A賞 (ラジオ付時計)

- 幕張支部 大竹良夫
- 幕張支部 菅井俊造
- 津田沼支部 江澤英紀
- 木更津支部 木田勇夫
- 千葉転支部 加藤等

B賞 (ステレオラジオカセ)

- 幕張支部 鈴木信行
- 幕張支部 金子茂
- 木更津支部 山中茂男
- 木更津支部 渡辺直和
- 津田沼支部 宇田川一夫

